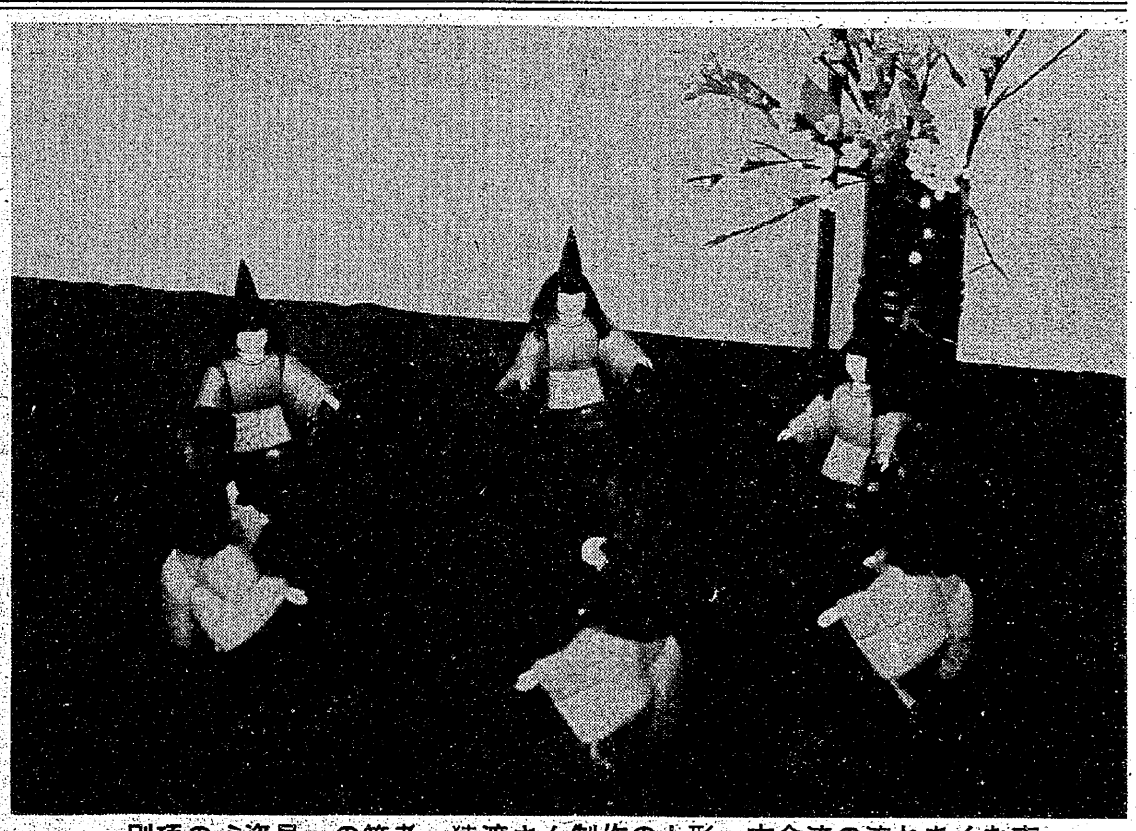


別項の〝姿見〟の筆者―猿渡さん制作の人形。古今流の流れをくむ真多呂人形だが、蹴マリ遊びのみやびた姿を見つめていると、いつともなく心がなごんでくる。そこには、まろやかな美しさがある。

姿見

人形展を終えて

明治分会　猿渡静子

三月三日のひなまつりを前に、古今流真多呂人形の作品展を無事終ることができました。

今年は昨年にくらべて人形の数が多く、生徒さんたちも、人形造りを教えている私には過ぎた人ばかりです。作品のどれもが、すばらしい出来上がりのものばかりでした。

展示されたのは、本科、高等科、師範科と広い作品で、古典を象徴する十二単衣を着た東宮立雛をはじめ元禄立雛、春日野雛、大和雛、あるいは団地の狭い住まいに飾られるミニの蓬莱雛、ハマグリを利用してつくった貝雛、などなど、お客様の目をひいたように思っています。

なかでも、昔の京都御所でのお正月行事の一つで、あのケマリ遊びのところでは、お客様の列も進まないようでした。真多呂人形を造り始めて十二年。この趣味との出合いを大切にしてきてよかったと、今しあわせな思いをかみじめているところです。

ただひとつ、私に大変心残りなことがございます。それは、昨年世を去りました実家の父に、ついにこの作品展が見てもらえなかったことです。ひとこと、書き添えさせていただきます。

（別項写真ご参照を）

×

主婦会員の皆さん、どうか皆さんの心で、手で、この〝姿見〟欄の火を消さないでください。お願いします。

なお、用紙は便箋であろうと、毎朝配られてくる新聞に折りこまれている広告の裏側をご利用いただこうと、まったくかまいませんし、文章もりっぱなものでなく、できごとや心に思うことなど鉛筆などでなぐり書きしていただけば、こちらで整理いたしますので、がんばってください。

※　※

おねがい

三池の主婦の皆さん、本ページにぜひ生活記をお寄せください。もしできれば、家計簿を提供していただいたらさらにうれしく思います。春闘で、私たちは勝利を手にしなければなりません。

ほしい大根のシッポ

横暴自民党にそうぼやきなすナ

職場新聞〝ひびき〟の漫談

新聞、テレビなどでは増税、軍備費増加、物価高、福祉後退など国民の生活はますます苦しくなっています。

それもまた結構々々。大の大人がそう、選挙権をもちながら、意志表示をしといて、いまさら異をとなえてゴジャゴジャいうなんてもっての外であろう。自民党は国民の過半数の支持をうけ、堂々と本音の政策を実行していくのだから。国民の大多数は「増税、高物価、生活苦熱烈歓迎」と大拍手しながら、死物狂いで納税のため働き、一円でも安い大根のシッポを求めてマーケットを走りまわっている。

それが、これの求めた道だからなア。「私は、自民党に票ば入れたつじゃなか。人物は信用して投票したつばってんなア」なんてぼやきなすナ。ガキじゃあるまいし……。

現に、大牟田・荒尾じゃ、三井さんの後押しば受けた者が必ず当選するげな。（今回の荒尾市長選挙は別）なしじゃろか、三井さんは当地では選挙権は持たんとに。それに三井さんは、公害は遠慮なしにプレゼントしてくれらすばってん、地元に、体育館も文化会館も、寄付しようなんて夢にも思ってはおらっさんもんなア。

さて、これからどうなるかな。まずは、春闘前にボヤキ漫談でした。

×

職場二分会（三川）の新聞〝ひびき〟（一月二十六日発行）から紹介。勝手ながら、一部分今日に適するよう改めさせていただきました。おゆるしを。　編集部

三月の暦

やよい

1日　労働組合法施行（一九四六年＝昭和二十一年のこの日）記念日、全国緑化運動開始。第五福竜丸がビキニ島で行なわれたアメリカの水爆実験に被災（一九五四年＝昭和二十九年のこの日）。

3日　ひなまつり（桃の節句。江戸時代から続く行事）。娘の子の行事。耳の日。

5日　山本宣治、暗殺される（一九二九年＝昭和四年のこの日）

6日　啓ちつ（冬ごもりの虫がはい出るという）。

7日　消防記念日。

8日　国際婦人デー。

10日　この日治安警察法公布（一九〇〇年＝昭和三十三年）。

15日　一九六〇年＝昭和三十五年のこの日、三池労組分裂（三池闘争のなかで）。この日、三鉱連結成。

18日　彼岸（ひがん）の入り。

19日　動物愛護週間運動開始。

21日　春分の日（彼岸の中日）。

22日　放送記念日。

23日　世界気象記念日。

24日　彼岸の明け。

25日　電気記念日。

28日　一九五九年＝昭和三十四年のこの日、安保改定阻止国民会議結成。

29日　一九六〇年＝昭和三十五年のこの日、三池労組員の久保清さん暴漢に刺され死亡（三池闘争のとき）。

×

三月は彼岸の月。彼岸とは、仏典では此岸（現世）に対し別次元の世界を意味する。現世的な拘束のない、自由の境涯のこと。

それほど、希望の満ちる月というので、また「春」が「懇（はる）」に通ずるとの説もある。立春（二月四日）から立夏（五月六日）ころまでを春と呼ぶ習慣。

連合の情報によると、暖かな日が多くなるが、天気は周期的に変わり、荒れたり、寒さがもどったり、雪の降る日も予想され、高血圧症や心臓病をもつ人は要注意の季節。

いよいよ春闘。しっかりと手を取り合い、団結を固めよう。

差別の撤廃へ

近づく国際婦人デー

婦人の解放と平和のための国際的共同行動が行なわれる三月八日。一九八〇年のこの日、ニューヨークの婦人がパンと参政権を要求しデモを行なったのが契機です。日本では、一九二三年に初めて集会を開きました。第二次世界大戦や朝鮮戦争で中止させられていましたが、一九五九年から総評、婦人団体が実行委員会を作り毎年集会を開いています。今年も統一し、三月七日に東京・日比谷野外音楽堂で「婦人差別撤廃条約」の批准や安保条約廃棄などを掲げ開かれます。【連合】

大切な用土のこと

梅はこれから植え替え

梅の植え替えについて

春一番の香りをもたらした梅もやがて植え替えの季節がくる。

花が八分通り咲き終ったら花ガラを摘み取り、鉢から抜いて土をほとんど払い落とし、赤玉土五、腐葉土三、荒砂二の割で、根をいためないように植え込みます。

大き過ぎる根や、多過ぎる根は切り込んだ方がよく、植え込んだあとは鉢ごと水につけ、強い日や寒さにあてぬようにして管理します。肥料は、三週間後から与えることです。

正月の飾りの松竹梅、昨年買った盆梅、山採りの梅など、すべて右のことは適しています。

盆栽用土と効用（役割）

いうまでもなく、木は地中にしっかりと根をはり、土中から養分を摂って成長するのです。

根はまた水分や酸素を吸収して炭酸ガスを出しています。

用土はこの作用を容易ならしめるもので、その植物に合った植えつけをすることが大切です。

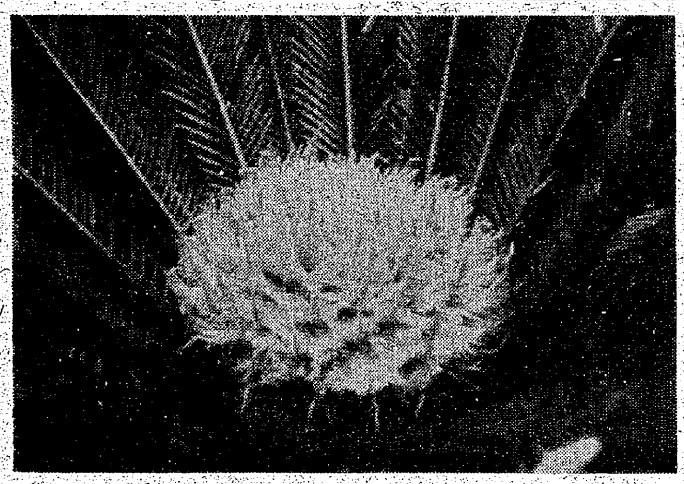
その辺の土でよいような、何でもなく思われ勝ちな用土ですが、ひじょうに重要な役割をしているのです。

要するに水はいるが排水性がよく、空気の流入がよく、酸素が含まれやすいことがかんじん。土そのものには余り肥料気がなく、肥料は、必要なものを必要な量だけ与えることで初めて、盆栽としての成育がなり立つことになるわけです。

庭木など、穴を掘り、土を入れ、そして水を入れて植え込むなどコンクリートするのと同じで、右の原理に反対することではないでしょうか。

×

二十二分会（三川）田上勇・記



ソテツの花

昨年のまに、ソテツの花が出てきました。ふしぎ。春先、咲いたのは、ほんの1月ですぐ枯れてしまいました。

ソテツは、年に1回の今年で、ちょうど1年目。

ソテツの花は、ずいぶんと変わっていて、ちょうど、ツボミのようなかたちをしています